目　　次

縄文土器と縄文土偶……芹沢長介 4
—シベリアとの関連において—
縄文人の生業と食生活……渡辺　誠 8
縄文時代の民俗……春成秀爾14
Ⅰ　縄文時代の自然環境……18
Ⅱ　縄文人のくらし……20
1．縄文人のすまい……20
2．食糧の獲得……20
山あいのムラ
縄文時代に農耕はあったか
海辺のムラ
3．ムラとムラとの交流・交易……31
黒曜石・ヒスイ
アスファルト・装身具
4．縄文人の台所……33
5．縄文人の生活技術……37
6．縄文人の道具箱……40
7．縄文人の身なり……42
Ⅲ　縄文時代の社会……44
1．縄文時代のムラ……44
2．祈りとまつり……45
3．縄文人の一生……48
4．縄文時代の人口と寿命……51
5．東日本と西日本の縄文社会……52
展示資料目録……53
引用・参考文献……59
指導・協力者……61

凡　　例

1．本書は第9回特別企画展「縄文人のくらし」の展示概説として作成しました。
2．紙面の都合で、展示資料のうち割愛させていただいたものも多く、ご好意に添えなかった失礼をお詫びいたします。
3．本書を作成するにあたって、多くの書籍から図や表を転載させていただきました。〈文○〉で出典の文献を番号で記しました。巻末の文献目録の番号を参照して下さい。
4．本書の配列は展示の順序と必ずしも一致していません。
5．本書の作成にあたり、芹沢長介先生（東北福祉大教授）、渡辺誠先生（名古屋大学助教授）、春成秀爾先生（国立歴史民俗博物館助教授）より玉稿を賜りました。三先生の御好意に深く感謝いたします。
6．資料の提供はじめ、ご指導ご協力くださった方々のお名前は巻末に掲載させていただきました。深く感謝の意を表します。
7．期間中、都合により展示資料を変更することがあります。

長野市立博物館

開館三周年にあたって

長野市長　柳原　正之

長野市立博物館は、全市民待望のもと昭和56年９月23日に開館、それ以来３年の間、長野市民はじめ多くのみなさんから親しまれ、期待される社会教育施設として今日にいたりました。この間28万余の展示室への入館者と、５万人に近い天体学習室での見学者でにぎわい、博物館創設の目的である市民文化の興隆のために大いに役立ったことと同慶にたえません。これは、開館までに企画準備のために御協力いただいた多くの方々の優れた展望の成果であるとともに、これを育てた市民のみなさんの熱意と、これにこたえた博物館の教育活動の賜物と考えております。

長野市では、特に生涯教育の場としての社会教育施設の充実に意を注ぎ、中でも市民の文化性を標ぼうする場としての博物館づくりには、市民の絶大な御協力のもとに推進して来ました。長野市立博物館が、この目的を達成するため機能していること、中でも館独自の研究の成果を逐次発表しながら教育活動を推進して来たことは、市民の要望にこたえる結果を将来するものと考えるところです。

山国、雪国と呼ばれるこの地方の厳しい生活環境の中から生まれて来た長野地方独特な文化を、幅広い視野で展望し、未来への礎として生かしていくことは、豊かな人づくり郷土づくりを進めている長野市の行政には不可欠の要素です。

33万人余の長野市民の文化の殿堂として、今後も多くの御利用御活用を願い、博物館の内容がますます充実されることを希望してやみません。

特別企画展

〝縄文人のくらし〟開催にあたって

長野市立博物館では、開館以来長野盆地の歴史と人の生活を主題にした常設展示を中心に、多くのみなさんをお迎えしましたが、さらに、この概観性を補うため、歴史、民俗の部門については企画展示を開催して来ました。今回は数えて９回目を迎え、歴史のうち考古学が究明して来た、日本原始時代の様相をより深く理解していただく場をもちました。

これまで、第３回目の企画展では、古墳時代を〝はにわ〟を中心にして見ていただき、第５回目には、弥生時代のシナノの様子を見ていただきました。今回は、さらに時代をさかのぼり、約８千年近くにわたる縄文時代の人々の生活の様子を、より理解しやすい形で展示いたします。

縄文人の生活は、氷河期から後氷期への比較的豊かな自然環境の中で進められ、山や海に狩猟や漁撈の生活を送り、山野に実る木の実などを採集することを中心にした毎日を過ごしました。しかし、時には天変地異にも遭遇し、厳しい自然の中で生きることの苦難を何度か体験したに相違ありませんが、その中から生まれた縄文文化は、自然と人間とが作り出した文化とも言えます。

縄目に代表される文様と、複雑な器形と一体化した装飾文に特徴のある縄文土器は、この時代の高度の文化を象徴していますが、最近、日本各地で進められている詳細な調査によると、生活の細部にわたる様相まで解明され、自然の中で生活する方法を現代に教えてくれるほどです。

今回の〝縄文人のくらし〟は、東日本で特に発達した縄文文化の様相を多角的に展示しより深い理解をしていただくために開催いたしました。

なおこの展覧会のために御指導いただいた文化庁・芹沢長介先生はじめ、多くの貴重な資料を御提供いただいたみなさんに深く感謝の意を表します。

昭和59年10月７日

長野市立博物館長

掛川　一夫